



1 69回目の「終戦の日（終戦記念日）」

昭和20年（1945）8月15日は、第二次世界大戦が終結したことを記念する日です。昭和57年（1982）には、この日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」とすることが閣議決定され、今日に至っています。

宇検村戦没者追悼式典は、今年も8月15日にやけうちの里で開催され、私も参列いたしました。

この大戦における宇検村出身の戦没者は394名。愛する家族の幸せや日本の繁栄と平和を願いながら、外地で戦火に倒れ、無念の死を遂げられた英霊に深甚なる敬意を表し、心から冥福を祈りました。

2 終戦当時の田検小学校Ⅰ（学校沿革誌より）

学校沿革誌には、昭和20年のことが次のように記されています（原本は毛筆縦書き）。

先月23日より開始セン 沖繩戦争ハ 日々進ミ
テ急迫ニ陥リ 本部ニ於イテモ 防衛召集アリ
テ 職員中 A、B、C、D、5月20日 応召セ
リ。続キテ E、軍徴庸城 大和村ニ於イテ
義勇隊ニ編入セラル。(A～E、原本は教員の実名)

沖繩戦（おきなわせん、沖繩の戦い）とは、太平洋戦争（大東亜戦争）末期の1945年（昭和20年）、沖繩諸島に上陸したアメリカ軍を主体とする連合国軍と日本軍との間で行われた戦いです。昭和20（1945）年3月26日頃から始まり、6月20日ないし6月23日に終了したといわれています。

（「ウィキペディア」フリー百科事典より）

「先月23日より開始セン 沖繩戦争ハ…」とは、昭和20年6月を指していると思われます。

沖繩戦が急迫していく中、本校に勤務していた教員5名にも召集の命が下りてきたことが分かります。

その後の記録は以下のとおりです。

6月25日 沖繩玉砕ノ報ヲ聞ク
大島ニオイテハ 敵上陸必至ヲ期シ 軍民撃
敵必殺ノ気 張ル
8月15日 終戦

今では到底考えられないような緊迫感が、学校及び

島内全域にあったことを窺い知ることができます。

3 終戦当時の田検小学校Ⅱ

（昌谷 昭さんの追憶記より）

昭和55年11月に刊行された『創立百周年記念誌』に、昌谷昭さん（教員）の追憶記がありました。

母校にお世話になったのは、昭和21年4月から25年の8月まででした。敗戦によって島もほとんど焦土化し、本土や海外からの引揚者が多く、人口も多くなり極度に食糧事情も悪く、しかも日本から分離され、皆が虚脱状態になっている時でした。

教育も日本人としての教育がなされるかどうかと、不安であったのですが、母国と同じ教育がなされたのは不幸中の幸いでした。（日本と）分離されていたので大島教育事務局が文部省の役目まで果たす変則的狀態の中で、内地との交通も自由にできず、あらゆる物が不足している中での教育でした。

教科書も古本を何年も使い、学用品等もいろいろ工夫して使用していました。6・3・3制が施行される過渡時代でしたが、今まで使用していた修身、国史、地理等が使用禁止になり、新たに社会科が新設されたが、指導要領もなく教科書もなく暗中模索する状態でした。男女共学になったのもその頃で、最初は気を使ったのですが、「生むは易し」のたとえのとおり、問題なく授業もスムーズにいった記憶があります。民主教育だといわれたものの、教師の再教育もなされないで、（教員）各自が戦前の教育を反省したり、古い民主主義の本等を読んだりして毎日の授業に取り組んだものです。

当時の子どもたちは、純真で悪条件が重なっていたにもかかわらず忍耐強く、明朗で意気消沈することなく勉強して、生活指導等で苦労した記憶はありません。（次号につづく）

昭和20年3月末から沖繩戦があったことや、8月6日に広島に、8月9日には長崎に原爆が投下されたこと、そして8月15日が終戦の日であることなどは、子どもたちにしっかり語り継ぎ、彼らに平和な国家や社会を形成するたくましい後継者になってほしい。

（文責：福田裕生）